

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり (つつじユニット)		
所在地	北海道旭川市永山4条3丁目1番20号		
自己評価作成日	平成25年2月	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900078-00&PrefCd=01&VersionCd=022

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年3月21日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

大雪山連峰に囲まれ、近くには観光名所である旭山動物園があります。職員は入居者様と色々な所へ出掛け楽しい日々を送られています。個々のかかりつけ医や当グループホームの医療連携機関及び歯科往診等と連携をとり、安心して過ごされるよう取り組んでいます。入居者様の身体的・精神的状況に重点を置き、個別にケアを行うことで残存機能の現状維持・向上を図れるよう努めています。地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に積極的参加を行い、情報共有や職員の質の向上に努めています。

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

＜本人を共に支え合う家族との関係づくり＞
 重度化している本人と家族の絆を大切にしながら、医師と協力・連携しながら桜見物に出掛けて最後の花見を家族と一緒に過ごす機会を支援するなど共に本人を支えていく関係を築いている。また、近隣中学校の学校祭や保育園の運動会・お遊戯会見物など子供たちとのふれあいの機会を大切にした支援を継続して実施している。
 ＜楽しみごとへの支援＞
 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、演芸や生け花、茶道等のボランティアの協力を得たり、はり絵や百人一首、自宅での外泊や納涼祭を開催してお祭り気分を味わえるように取り組み、楽しみごとへの支援をしている。また、冬期間に外出の機会が減るために雑祭りや新年会を開催するなど本人本位の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目：23,24,25)	☐	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目：9,10,19)	☐
		☐			☐
		☐			☐
		☐			☐
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目：18,38)	☐	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	☐
		☐			☐
		☐			☐
		☐			☐
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	☐	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目：4)	☐
		☐			☐
		☐			☐
		☐			☐
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目：36,37)	☐	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	☐
		☐			☐
		☐			☐
		☐			☐
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	☐	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	☐
		☐			☐
		☐			☐
		☐			☐
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目：30,31)	☐	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	☐
		☐			☐
		☐			☐
		☐			☐
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	☐			
		☐			
		☐			
		☐			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、毎朝ミーティング終了後に職員全員で唱和し、実践につなげております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人理念をつくり、朝のミーティングで唱和や内部研修等を通じて職員間で共有し、その実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会の委員の方に毎回参加していただき、意見を伺っております。また、定期的に行われている廃品回収の協力も行っている。	近隣中学校の学校祭や保育園の運動会・お遊戯会見物など子供たちとの交流や町内の廃品回収等への参加、地元の花火大会・お祭り参加、事業所主催の夏祭りを開催するなど地域の人達との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の委員の方に毎回当グループホームの状況を説明しており、認知症のことや最近の高齢者福祉の状況をお話しさせていただき、町内会へ還元していただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について業務推進会議等で報告し、サービスの向上を図っています。	運営推進会議は、年6回を目安に開催し、利用状況や行事報告、地域との連携等具体的内容について話し合い、そこでの意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症等や運営上で不明な部分に対し、電話による確認や報告や書類提出等行い、連携に心がけている。	市担当者や包括支援センター職員との連携の重要性を認識し、研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間時に防犯のための施錠は行うものの、日中帯については出入りが自由にできるよう開錠している。身体拘束については、事例として発生せざるをえない事由もなかったことから、現行で研修や委員会の実施は行っていない。	全ての職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会の研修を通じて、正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	任意ではあるが、職員への研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。また、職員同士でもチェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意ではあるが、職員への研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される方やご家族様に対して十分な説明を行い、入居・退居される際は安心及び納得していただけるように行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。苦情相談受付窓口（苦情解決責任者含む）を掲示している。また、入居者様やご家族様の要望等があった場合には業務推進会議に反映を図る。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情相談受付窓口を見やすい場所に掲示している。また、意見箱を玄関に設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とコミュニケーションを図れるように努め、業務推進会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。	業務推進会議や日常業務を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や能力に応じて、雇用形態（パートから准職員及び准職員から正規職員への登用）を考慮している。部分的に人事考課制度を取り入れている。一部の資格取得の助成制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	任意であるが外部研修への参加に取り組み、要参加費の場合は助成している。また、認知症への理解として、同一法人の他グループホームと共に内部研修を実施している。就業しながら資格取得（ヘルパー2級等）のため、講習参加可能なように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修や北海道認知症グループホーム協会主催の研修に参加し、同業者等の交流の機会を作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、ご本人様より要望等の話しを十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で、ご家族様より要望等の話しを十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族への相談では細かい部分まで傾聴し、ご希望があれば施設見学等も行い、必要なニーズを支援していけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員目線にならずご利用者様目線でのケアサービスに努め、コミュニケーションを図りながら良い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会及び行事参加等で来所された際は、ゆっくりと寛げる環境づくりに努めている。また、ご利用者様の記録等開示し、情報共有に努め、ご家族様と一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく外出、外泊、面会等が出来るよう努めている。また、敬老会や新年会では行事としてご家族を招き、会食や談笑できる場の提供に努めている。	自宅への外泊支援や地元のお祭り参加、商店街見物やお花見等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立しないように、職員が気配り・目配りに努めている。また、ご利用者間でトラブルが生じた際には、職員が見守り及び間に入ることでトラブルの長期化及び深刻化を未然に防ぐことで人間関係のスムーズ化を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約終了されても、ご家族様より気軽に相談できる場として努めている。また、長期入院の際にはお見舞いにも伺い、ご家族様へのフォローや相談等にも努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様個々の希望全てに対してサービス提供を行うことはなかなか出来ない実情ではあるものの、コミュニケーションを図りながら可能な限り意向に近づけられるよう、アセスメントやカンファレンス、業務推進会議等で検討を行っている。	アセスメントを通じて一人ひとりの生活歴や給食委員会で嗜好を把握し、本人本位に検討して具体的なサービスの質の向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やアセスメントにて把握を行っている。また、詳細等はご利用者様本人やご家族様とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録票にて記載され、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、状態変化があった場合は、その都度対応し、業務推進会議やカンファレンス等で検討し介護計画に反映を図っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式を活用し、本人・家族の意見やモニタリングを通じて職員の意見を介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートを活用しながら、ケア内容や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を把握し、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当グループホームの地域及びご利用者様が関わっていた地域の祭事等にご家族様のご協力も得ながら参加できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様及びご家族様の希望や要望に沿ったかかりつけ医の受診や、医療連携機関医師の往診や看護職員による健康チェック及び歯科往診の利用の支援に努めている。	医師や歯科医師・訪問看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員の配置はないが、ご利用者様の体調異変時には、その都度医療連携機関に報告、指示受けを行い適切な対応を行っている。しかし、昨年10月に医師の変更はなかったものの、医療機関及び看護職員の変更もあり、戸惑いもあった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医及び医療連携機関と連絡を密に行い状態把握(定期的に入院先へ状態確認を兼ねてお見舞いに伺っている)に努めている。また、職員への状態報告や個人記録に記載し、情報の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を作成し、入居前に説明。重度化した際はご家族様と医療機関(主として医療連携機関)との話し合いの中で当グループホームの管理者も立会い、ご利用者様にとって良い支援に結び付けられるよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の一人勤務に不安を感じるが、応急手当及び対処方法の内部研修を行い、緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施。運営推進会議にて非常時には地域の協力を要請している。災害時には建物が使用不可能になった場合、当法人の介護保険施設へ一時避難が可能である。	年2回の避難訓練の実施や日中、夜間を想定した総合避難訓練を事業所独自に実施していると共にそれが身に付いているかを確認している。また、防災訓練に家族の参加を呼びかけたり、地元の人々に避難誘導の際に利用者の判別がつくようにファイルを作成し、協力体制の構築に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応、記録等の取り扱いには十分に配慮を行っている。ケアにおいても自尊心や羞恥心、プライバシーへの配慮した上で行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけが無いように自己評価を通じて周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように様々な選択肢を用意して説明を行いながら実行に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や外出については施設の都合で行っている色が強いが、夜間入浴を含め出来るだけ個々の希望に合わせて行いたいとは努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に行くことの出来ないご利用者様は、訪問理美容をご利用いただき、好みのカットや毛染めの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に嗜好を伺い、ご利用者様の好みにあった食事を提供している。また、ご利用者様が自ら準備や片付けに携わっている。	給食委員会で一人ひとりの嗜好を把握し、職員と一緒に食事の準備や後片付けなど行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食量や水分量等記載することで把握に努めている。摂取量が少ない場合には、医療連携機関に報告し指示による健康維持に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援や声かけを行い、個々の能力に応じて自立支援を考慮し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用することで個々の排泄パターンを把握し、尿・便意を訴えることが困難な方でも誘導することで、トイレでの排泄が可能な限り出来るよう支援している。	一人ひとりの力や排泄のパターンを排泄チェック表で把握して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中にはラジオ体操やストレッチ体操を取り入れ、直後に水分摂取を促している。また、食事・水分量及び排泄表を活用しながら、状況に応じて医師に相談し下剤等でも調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めさせているものの、個浴を基本としている。個人差は多少あるものの、ゆったり入浴していただくことを基本に支援している。また、拒否的な言動や体調不良から入浴できない方については、状況に応じて時間や日程の変更をして清潔保持に努めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも対応した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルに合わせて支援を行っている。また、内服等の関係で昼に傾眠傾向にある場合は、時間を決めて自室にて横になっていただき、昼夜逆転に至らないよう留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書等は個人記録表に綴り、変更や増減の際には写真も記録に綴り情報を共有している。予約の際には名前を口にして誤薬に注意し、飲み込みの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意なことを把握し、日々の中でレクリエーション（読書や貼り絵、百人一首等）を行っている。また、食事の準備や下膳、洗濯物干しやたたみ等強要することなく手伝っていただく事で、これまで行ってきた生活の中での役割を意識できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節柄の外出計画（花見・お祭り・紅葉見物等）の立案し、その際にご家族様への同伴も取り入れています。	一人ひとりのその日の希望に沿って保育園の運動会や中学校の学校祭見物、相撲や七夕祭り見物、忠別ダムや森林公園へのドライブなど戸外に出かけられるよう支援し、家族の参加も呼びかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金として管理者が管理しているが、自己管理がある程度可能なご利用者様はご家族様と相談のうえで一部自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様個々の居室に電話が設置可能となっており、ご利用者様、ご家族様がご希望されればご使用いただいている。また、当グループホームの電話を自由にご利用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの吹き抜け天窓には、直接日光がささないようステンド長やすりガラスのシールを貼り、長時間ソファで寛いでいても快適である。壁にはご利用者様のの作品展示や写真等を掲示したり、季節に合わせて模様替えも行っている。	季節毎の飾りつけや一人になったり、談笑ができるように椅子やソファが配置され、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んで、1人掛けソファと3人掛けソファを設置し、ゆったり寛げるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使用されていた馴染みのある筆筒や椅子・花瓶・写真等を持参していただき、安心して落ち着きやすい居室になるよう支援している。	居室には、馴染みの家具やソファ等が持ち込まれたり、家族の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・玄関等に手すりを設置し、移動の際は安全に自力歩行が出来るように支持していただき、支援している。一部居室にも手すりを設置し、残存機能維持につなげている。食器拭きや居室掃除も共に行っている。		

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり (ななかまどユニット)		
所在地	北海道旭川市永山4条3丁目1番20号		
自己評価作成日	平成25年2月	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900078-00&PrefCd=01&VersionCd=022

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年3月21日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

大雪山連峰に囲まれ、近くには観光名所である旭山動物園があります。職員は入居者様と色々な所へ出掛け楽しい日々を送られています。個々のかかりつけ医や当グループホームの医療連携機関及び歯科往診等と連携をとり、安心して過ごされるよう取り組んでいます。入居者様の身体的・精神的状況に重点を置き、個別にケアを行うことで残存機能の現状維持・向上を図れるよう努めています。地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に積極的参加を行い、情報共有や職員の質の向上に努めています。

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)			☐	
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)			☐	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)			☐	
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)			☐	
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	☐		☐	
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	☐		☐	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、毎朝ミーティング終了後に職員全員で唱和し、実践につなげております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会の委員の方に毎回参加していただき、意見を伺っております。また、定期的に行われている廃品回収の協力も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の委員の方に毎回当グループホームの状況を説明しており、認知症のことや最近の高齢者福祉の状況をお話しさせていただき、町内会へ還元していただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について業務推進会議等で報告し、サービスの向上を図っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症等や運営上で不明な部分に対し、電話による確認や報告や書類提出等行い、連携に心がけている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間時に防犯のための施錠は行うものの、日中帯については出入りが自由にできるよう開錠している。身体拘束については、事例として発生せざるをえない事由もなかったことから、現行で研修や委員会の実施は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	任意ではあるが、職員への研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。また、職員同士でもチェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意ではあるが、職員への研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される方やご家族様に対して十分な説明を行い、入居・退居される際は安心及び納得していただけるように行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。苦情相談受付窓口（苦情解決責任者含む）を掲示している。また、入居者様やご家族様の要望等があった場合には業務推進会議に反映を図る。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とコミュニケーションを図れるように努め、業務推進会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や能力に応じて、雇用形態（パートから准職員及び准職員から正規職員への登用）を考慮している。部分的に人事考課制度を取り入れている。一部の資格取得の助成制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	任意であるが外部研修への参加に取り組み、要参加費の場合は助成している。また、認知症への理解として、同一法人の他グループホームと共に内部研修を実施している。就業しながら資格取得（ヘルパー2級等）のため、講習参加可能ように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修や北海道認知症グループホーム協会主催の研修に参加し、同業者等の交流の機会を作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、ご本人様より要望等の話しを十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で、ご家族様より要望等の話しを十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族への相談では細かい部分まで傾聴し、ご希望があれば施設見学等も行い、必要なニーズを支援していけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員目線にならずご利用者様目線でのケアサービスに努め、コミュニケーションを図りながら良い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会及び行事参加等で来所された際は、ゆっくりと寛げる環境づくりに努めている。また、ご利用者様の記録等開示し、情報共有に努め、ご家族様と一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく外出、外泊、面会等が出来るよう努めている。また、敬老会や新年会では行事としてご家族を招き、会食や談笑できる場の提供に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立しないように、職員が気配り・目配りに努めている。また、ご利用者間でトラブルが生じた際には、職員が見守り及び間に入ることでトラブルの長期化及び深刻化を未然に防ぐことで人間関係のスムーズ化を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約終了されても、ご家族様より気軽に相談できる場として努めている。また、長期入院の際にはお見舞いにも伺い、ご家族様へのフォローや相談等にも努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様とコミュニケーションを図り、希望の確認を行っている。状態により確認が難しい方には、思いを汲み取れるように配慮し、ユニット会議等で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やアセスメントにて把握を行っている。また、詳細等はご利用者様本人やご家族様とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録票にて記載され、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、状態変化があった場合は、その都度対応し、業務推進会議やカンファレンス等で検討し介護計画に反映を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートを活用しながら、ケア内容や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を把握し、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当グループホームの地域及びご利用者様が関わっていた地域の祭事等にご家族様のご協力も得ながら参加できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様及びご家族様の希望や要望に沿ったかかりつけ医の受診や、医療連携機関医師の往診や看護職員による健康チェック及び歯科往診の利用の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員の配置はないが、ご利用者様の体調異変時には、その都度医療連携機関に報告、指示受けを行い適切な対処を行っている。しかし、昨年10月に医師の変更はなかったものの、医療機関及び看護職員の変更もあり、戸惑いもあった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医及び医療連携機関と連絡を密に行い状態把握(定期的に入院先へ状態確認を兼ねてお見舞いに伺っている)に努めている。また、職員への状態報告や個人記録に記載し、情報の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を作成し、入居前に説明。重度化した際はご家族様と医療機関(主として医療連携機関)との話し合いの中で当グループホームの管理者も立会い、ご利用者様にとって良い支援に結び付けられるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の一人勤務に不安を感じるが、応急手当及び対処方法の内部研修を行い、緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施。運営推進会議にて非常時には地域の協力を要請している。災害時には建物が使用不可能になった場合、当法人の介護保険施設へ一時避難が可能である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応、記録等の取り扱いには十分に配慮を行っている。ケアにおいても自尊心や羞恥心、プライバシーへの配慮した上で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように様々な選択肢を用意して説明を行いながら実行に努めているが、自己決定が困難な方に関しては思いを汲み取れるようその時々で検討し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や外出については施設の都合で行っている色が強いが、夜間入浴を含め出来るだけ個々の希望に合わせ行いたいとは努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に行くことの出来ないご利用者様は、訪問理美容をご利用いただき、好みのカットや毛染めの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に嗜好を伺い、ご利用者様の好みにあった食事を提供している。また、ご利用者様が自ら準備や片付けに携わっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量や水分量等記載することで把握に努めている。摂取量が少ない場合には、医療連携機関に報告し指示による健康維持に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援や声かけを行い、個々の能力に応じて自立支援を考慮し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用することで個々の排泄パターンを把握し、尿・便意を訴えることが困難な方でも誘導することで、トイレでの排泄が可能な限り出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中にはラジオ体操やストレッチ体操を取り入れ、直後に水分摂取を促している。また、食事・水分量及び排泄表を活用しながら、状況に応じて医師に相談し下剤等でも調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めさせているものの、個浴を基本としている。個人差は多少あるものの、ゆったり入浴していただくことを基本に支援している。また、拒否的な言動や体調不良から入浴できない方については、状況に応じて時間や日程の変更をして清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルに合わせて支援を行っている。また、内服等の関係で昼に傾眠傾向にある場合は、時間を決めて自室にて横になっていただき、昼夜逆転に至らないよう留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書等は個人記録表に綴り、変更や増減の際には写真も記録に綴り情報を共有している。予約の際には名前を口にして誤薬に注意し、飲み込みの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意なことを把握し、日々の中でレクリエーション（読書や貼り絵、百人一首等）を行っている。また、食事の準備や下膳、洗濯物干しやたたみ等強要することなく手伝っていただく事で、これまで行ってきた生活の中での役割を意識できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節柄の外出計画（花見・お祭り・紅葉見物等）の立案し、その際にご家族様への同伴も取り入れています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金として管理者が管理しているが、自己管理がある程度可能なご利用者様はご家族様と相談のうえで一部自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様個々の居室に電話が設置可能となっており、ご利用者様、ご家族様がご希望されればご使用いただいている。また、当グループホームの電話を自由にご利用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの吹き抜け天窓には、直接日光がささないようステンド長やすりガラスのシールを貼り、長時間ソファで寛いでいても快適である。壁にはご利用者様の作品展示や写真等を掲示したり、季節に合わせて模様替えも行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んで、1人掛けソファと3人掛けソファを設置し、ゆったり寛げるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使用されていた馴染みのある筆筒や椅子・花瓶・写真等を持参していただき、安心して落ち着きやすい居室になるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・玄関等に手すりを設置し、移動の際は安全に自力歩行が出来るように支持していただき、支援している。食器拭きや居室掃除も共に行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームゆとり

作成日: 平成25年 3月 22日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	31	医療関係職員が常勤していないことから、体調不良や事故発生時の対応に不安がある。	体調異変時の早期発見と適切なリスクマネジメントによる未然防止と早期対応。	日頃よりご利用者様と関わりながら、リスクマネジメント及び健康管理の概念を持ち、全職員で留意していく。また、異変時には医療連携機関の看護職員及び医師との相談の上、環境整備も含め早期対応に努めていく。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。